

## 日本産業衛生学会東北地方会ニュース

# みちのく

No.66

12/21

2021

発行/令和3年12月21日・発行所/日本産業衛生学会東北地方会事務局

住所/〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町2-1 (東北大学大学院医学系研究科産業医学分野内)

電話/022-717-7874・FAX/022-717-7883・e-mail/sanei-michinoku@doh.med.tohoku.ac.jp・発行人/黒澤 一

## 第80回 日本産業衛生学会東北地方会を終えて

第80回日本産業衛生学会東北地方会 学会長

秋田大学大学院医学系研究科 衛生学・公衆衛生学講座

教授 野村恭子

令和3年度第80回日本産業衛生学会東北地方会は、新型コロナウイルス感染症のため、ハイブリッドで秋田市において開催されました。当時は感染が拡大している最中で、秋田県ではステージIV(対面で行う大規模イベントは不可)で最後まで完全オンライン開催にするか悩みました。日本医師会の産業医研修会のためには受講者は現地参加をする必要がありましたし他方、産業看護師研修はオンライン参加が認められていましたが、密にならない環境で参加者を受け入れるためにはハイブリッド開催が必須となっていました。それにもかかわらず直前の開催1か月前に、メイン会場にインターネット接続環境がやっと整いました。この背景には、秋田大学第一内科学講座同窓でもある秋田県総合保健事業団理事長戸堀文雄先生のご尽力がありました。事業所見学は、秋田ではこれまで「製造業」にこだわって実施してきましたが、生産活動に影響を及ぼしたくないため来訪者を極力入れたくない、とのことで軒並み受け入れを断られ、また密な環境も回避できないということで今回は断念せざるを得ない状況となりました。

不安いっぱいの中開催されたハイブリット学会では、12演題がエントリーし、オンラインを交えながら質疑応答まで無事に発表が終わりました。基調講演では、「ウィズコロナ社会の働く人のメンタルヘルス対策：秋田県自殺対策からの応用」と題し、秋田大学医学系研究科看護学講座准教授で長らく秋田県の自殺予防対策を牽引してこられた佐々木久長先生にご講演いただきました。東北地方における産業衛生学領域の課題について皆で共有し、活発な議論ができたと思います。

学会の特設ホームページは教室の技術職員の平山さんが担当し、学会の事務局は教室スタッフ、大学院生と学部生で行いました。現地で各部会を担当して下さった産業看護部会 和田桐子様(秋田産業保健総合支援センター) 産業衛生技術部会 森 洋様(秋田環境測定センター株式会社) 産業歯科保健部会 小林崇之先生(安倍歯科医院)、秋田県医師会、秋田産業保健総合支援センター、秋田県総合保健センターのスタッフの皆様、他に保健学科の佐々木真紀子先生、菊地由紀子先生、東北大学 黒澤先生、色川先生、事務局の皆様、どの方が欠けても開催そのものができませんでした。この場をお借りしまして、ここにお名前を上げられなかった方々も含め皆様には心より御礼申し上げます

---

## 第81回 日本産業衛生学会東北地方会開催要項 メインテーマ：「ポストコロナ、人口減少社会での産業保健」

学会長：今田 恒夫  
山形大学大学院医学医系研究科 公衆衛生学・衛生学講座 教授

---

1. 会 期：2022年7月22日（金）、23日（土）
2. 会 場：山形大学医学部 医学交流会館（予定）
3. 学会長：今田恒夫（山形大学大学院医学系研究科 公衆衛生学・衛生学講座 教授）
4. 内 容：テーマ「ポストコロナ、人口減少社会での産業保健」  
2022年7月22日（金）：事業所見学  
2022年7月23日（土）：一般演題、特別講演、各部会



---

## 東北地方会はこう発展した

元岩手医科大学客員教授 中屋重直

---

第 80 回を数える東北地方会の学術集会であるが、1976 年第 36 回までは年 2 回の開催で、冬は東北大医学部衛生学教室内で高橋英次教授が主催し、夏には地方の温泉地に宿泊して、工場見学と集談会プラス懇親会をセットに開催された。一時は新潟大学も含めていたと聞かすが、それでも会員に衛生学者は少なく、法医学や病理学の教授がおられた。何より鉱山関係の病院や労災病院の会員が多くて、塵肺や腰痛の演題が印象に残っている。記録の意味で、世話人になられた方々のお名前を以下に羅列する。

鈴木芳彦（常磐炭鉱病院）、西村辰男（呉羽化学）、塩島正二（東北労災病院）、伊藤克巳・藤井孝（釜石製鉄病院）、増田義徳（鉄興社酒田大浜）、植松稔（岩手医大）、戸張貢（日東化学八戸）、伊藤英夫（常磐中央内郷病院）、柳沢三男（秋田労災病院）、沼部治夫（郡山鉄道病院）、根本正（日東紡）。

東北 6 県に医学部衛生学・公衆衛生学の教授がそろい、関連する学会や研究会の数も増えて負担が大きくなったことから、年 1 回の持ち回りで工場見学と懇親会、口演発表 12 分程度、特別講演（東北以外の演者を招待）・シンポジウムを組み合わせる現在の形式に変化した。世話人（学会長と改称）は以後、現在までずっと大学医学部教授に限られてきた。例外は（山形県村山市鈴木内科医院）鈴木康洋、（宮城教育大）川上吉昭、（福島県立医大）鈴木秀吉助教授の諸先生だけだろう。

岩手医大衛生公衆衛生学 角田文男教授が地方会長を務めた 1988 年から 2004 年までの 16 年余、筆者は事務局を担当した。東北地方会は、この期間にまぎれもなく発展をとげたのであり、その歴史をふりかえって時折り紹介させてもらっている。

### 1) 機関誌「みちのく」の創刊（1989 年）

地方会の底上げをめざし、巻頭論説を前面にひろく関係諸方面に入会を呼びかけた。会員は当時 80 名程度だったが、数百部印刷し、医師会、歯科医師、事業所、労働衛生コンサルタント、産業保健推進センター、健康診断機関、労災防止団体、看護学校などに年 2 回送付した。この経費はほぼ角田教室同門会の寄付によった。

## 2)学会定款による役員選挙(1990年)・地方会規約の制定(1995年)

それまで地方会の世話人に関するとりきめはあいまいであったが、地方会長・理事・代議員の学会役員が地方会を執行することとなった。1995年には「東北地会規約」をはじめて文書化した。

## 3)産業看護部会(産業看護の集い)の創設(1994年)

産業看護部会の前身である産業看護研究会(深沢クニへ代表)に、東北地方から幹事を出すように、河野啓子理事からの強い要請があつて、杉村レイ(岩手日報社)を1989年に委嘱した。看護職は県単位では勉強会グループがあつて、福島は山内徹、宮城は広瀬俊雄、岩手では立身政信と中屋重直が指導していた看護職メンバーを東北地方会に集約させることで地方会看護部会の組織がつくられた。ただし、所属事業場の制限があつて、旅費の援助を地方会会計とする必要があつた。そのような背景があつて1994年7月仙台で「第1回 産業看護の集い」に80名もが参加した。各県連絡幹事によって運営され、2000年には部会内機関誌「産業看護とうほく」を創刊している。そして全国の看護部会では、山屋佐智子、多田由美子、村木真紀子、高橋智子、只埜則恵ら多数が意欲的に幹事を務めてきている。

## 4)東北地方会産業医部会の創設(1997年)まで

全国学会では産業医部会設置準備会(高田和美代表)が1990年発足し、広瀬俊雄委員が参加した。併行して日本医師会の存在が大きい。日医認定産業医制度(1990年発足)の単位取得のために、当学会への参加者が非常に多くなった。例えば1991年東北医師会連合会が初めて企画した「東北ブロック産業医基本研修会」にはすぐに600名の定数を超えた。

県医師会の産業医担当理事が主体となった東北医師会連合会直轄「東北産業保健学会(1978年創設)」が毎年夏にシンポジウム形式で開催されていた。「産業衛生と産業保健の違い」も正面から議論され、「産業衛生学会は学術研究だから」という棲み分けになりかかったが、角田地方会長が「嘱託産業医の現場の課題を取り上げ、看護や衛生技術職と共に議論する場を提供する」と提案し、1996年9月をもって「東北産業保健学会」を終焉して、産衛東北地方会に参加することが決議された。これにより、会員数は倍増し、臨床医師(嘱託産業医)が約4割の多数を占める構成へと画期的な変化を遂げた。

そして翌1997年の地方会に併せて「第1回東北産業医協議会」(秋田)を「東北地方における産業医活動の活性化のための交流会」と称して開催したのである。以後の運営は、地方会長の管掌のもとで各県連絡幹事と全国の産業医部会幹事とで執行する組織になっている。

以上、今夏秋田市における第 25 回産業医協議会における講演「東北地方産業医部会創立の理念」を要約した。

写真は、中国でフッ素症の調査研究を行なった角田文男教授と中屋（左）。



---

## コロナ禍での産業医活動

仙台錦町診療所

齋藤慶史

---

コロナ禍となってから約2年になりますが、本稿執筆時も第5波が落ち着き停滞していた経済活動が再開され始めたかと思いきや、新たな変異株が出現し世界中で再度入国制限などが始まっています。国内でも忘年会の開催を勧めたり、補助を出たりする自治体もありますが、企業の6・7割が忘年会を行わないと答えており、まだまだコロナ前の日常生活とは程遠い状況が続いています。

現在3人の医師で産業医を10数か所引き受けていますが、この2年間の企業での新型コロナウイルスへの対応を振り返ってみますと、最初の1年間は情報が次から次へ更新される中で、一つ一つ対応していくことに苦慮していたように思います。企業によって対応の温度差もかなりありましたし、何がより正しいのか誰もわからない中でエビデンスのはっきりしない情報も氾濫していました。効果が乏しい対策や有害性が高い対策、消費者庁から注意喚起が出されている対策が相談のないままに採用されていることもありました。医療・産業衛生の専門家として都度説明をしてきましたが、医学的な説明が必ずしも労働者の安心にはつながらないことも多々経験しました。嘱託産業医として企業との信頼関係を損なわないように注意しつつ、科学的な効果と共に精神的不安を軽減する効果にも着目して助言するよう心掛けて対応してきました。

2021年になってからは新型コロナウイルス自体の情報が整理されてきたことやコロナ禍でのメンタルヘルスへの対応、リモートワークでの健康管理など様々な経験の蓄積がされ情報発信もされてきたこともあり各企業内での対応も少し落ち着いてきたように思います。ワクチンの職域接種への対応などはありましたが、2021年後半からは新型コロナウイルスへの対応よりも過重労働への対応、健康診断の事後措置、復職への対応などが増えてきており、産業医活動の場は徐々に通常業務に戻ってきているように感じています。

学会はWeb開催やハイブリット開催が多くなり、参加しやすくなったように思います。ただ、私自身は出張ではないため休診や代診とすることが難しく、Liveよりもオンデマンドでの参加が主となっています。産業衛生学会では、Live配信以外では聞けない演題も多数あり大変残念に思います。また、コロナ前は学会会場での立ち話や近況報告などから日々の活動の問題点に解決策やヒントが見つかることもあったように思います。早く新型コロナウイルス流行が収まり、会員同士直接会っての交流ができることを願っています。

---

## これからの新型コロナウイルス対策について

五十嵐 侑

五十嵐労働衛生コンサルティング合同会社・代表/産業医

---

コロナ禍における今後の産業保健活動について特に重要だと思う3つの事項を考察する。

### 【ワクチン接種の推進】

現在、3回目のワクチン接種が始まりつつある。職域接種を実施する企業もあるようだが、前回の職域接種よりも手を上げる企業は少ないようである。3回目接種への不安の声も聞かれ、かつワクチン接種へのアクセシビリティ（就業時間内接種など）が低下することで従業員の接種率の低下が懸念される。ワクチンの効果は完璧ではないものの、従業員の感染・社内クラスター発生の予防や、従業員の海外出張の観点などからもワクチン接種の推進が望まれる。半強制的な接種や接種しない従業員への不利益取り扱いが起きないような配慮も必要である。企業全体の接種状況を把握することは、数値目標を持って接種勧奨施策を進めるためにも有効である。その際には、ストレスチェックと同じように、安全衛生委員会で審議することや、ルールの特文化、社内への周知も検討される。

### 【罹患後症状を抱える従業員の職場復帰】

COVID-19 罹患者の一部に様々な「罹患後症状」を認めることがわかっており、本邦の調査では、診断6ヶ月後に罹患者全体の10%以上に疲労感・倦怠感、息苦しさ、睡眠症状、思考力・集中力低下などが認められた<sup>1</sup>。基本的には時間とともに軽快する症状と考えられるが、罹患後症状と仕事内容によっては就労にも影響を及ぼしうる。従業員が罹患後症状を抱えている場合には、産業医は、主治医と連携しながら、業務により疾病が増悪しないような一定の仕事に対する配慮や、治療に対する配慮を関係者と検討する。その際には、職場での差別対応や、業務に起因して感染したと考えられる場合には、労災申請の支援も必要になる。

従業員の職場復帰時に続いている罹患後症状について、以下の3つの視点で配慮の内容を構造化すると、助言すべき視点を整理することが容易になる<sup>2</sup>。

- ① 従業員の健康や安全を脅かす状況への配慮  
(例：筋力低下のある従業員の高所作業の制限)
- ② 環境調整や障壁の変更・除外をする配慮  
(例：疲労感の続く従業員に対する休憩所利用の許可)
- ③ 本来業務を行う能力が損なわれた場合の配慮  
(例：味覚障害のある従業員の調理作業の制限)

**【抗原検査の活用】**

国が承認した医療用の抗原検査キットの薬局販売が 2021 年 9 月より開始され、精度の高い抗原検査キットが徐々に安く入手できるようになってきた。抗原検査は感度が低く見逃しが多い検査と思われがちだが、感染性が高い時期には感度は 8 割以上と高く、3 日に 1 回の抗原検査は PCR 検査と同等の感度 (98%) を持つという報告もある<sup>3)</sup>。なお、未承認の研究用抗原検査キットの精度は不明のため注意が必要である。検査にタイムラグやコストがかかる PCR 検査よりも、自宅等でもすぐに手軽に頻回に実施できる抗原検査の方が有用性は高いとも言える。海外では、無料で配布し、広く活用している国も多くある。抗原検査による早期発見、早期隔離、内服薬による早期治療という戦略も取ることができる。今後、さらに廉価になり広く普及するようになれば、職域でも抗原検査を積極的に活用する必要性が出てくると考えられる。

なお、本稿を作成中にデルタ株よりも感染性の高いオミクロン株の流行が報告されている。現時点では不確定な情報も多いため、本稿では言及を避けた。

## 参考資料)

1. 厚生労働科学特別研究事業 COVID-19 後遺障害に関する実態調査 (中間/最終報告) 第 39 回 新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボード資料  
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000798853.pdf>
2. 新型コロナウイルス感染症 罹患後症状のマネジメント - COVID-19  
<https://www.mhlw.go.jp/content/000860932.pdf>
3. Rebecca L Smith, et al. Longitudinal Assessment of Diagnostic Test Performance Over the Course of Acute SARS-CoV-2 Infection. J Infect Dis, 2021 Jun 30

**五十嵐 侑 (五十嵐労働衛生コンサルティング合同会社・代表/産業医)**

仙台出身。産業医科大学医学部卒業。産業医科大学産業医実務研修センターで産業医の修練を積み、大手製造業で専属産業医経験を経て、2020 年に五十嵐労働衛生コンサルティング合同会社を設立。2021 年に東北大学大学院医学研究科博士課程修了 (産業医学分野教室)。日本産業衛生学会専門医・指導医、社会医学系専門医協会指導医・専門医、医学博士、産業保健法務主任者。コロナ禍においては産業医有志グループとしても全国の中小企業向けに情報発信を行なっている。

**産業医部会****2年越しの産業医協議会**

医療法人健友会 本間病院  
菅原 保

福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座  
各務 竹康

今年度は野村恭子学会長はじめとする運営委員のご尽力により、2年ぶりに産業医協議会を開催することができました。テーマは昨年度見送った「温故知新～先輩産業医からのメッセージ」を引き継ぎ、中屋重直先生(前東北厚生局)および広瀬俊雄先生(錦町診療所・産業医学センター)より講演をいただきました。

中屋先生からは、東北地方会および地方会産業医部会の歴史について語っていただき、本学会および部会が東北地方での産業医育成について大きな役割を果たしてきたのだと学びました。広瀬先生からは現場の産業医一筋で歩まれた道、現場から着想を得ることで今までの常識を覆す革新的な研究を繰り返した経緯について学びました。まだまだ学ぶことの多い両先生には、今後も我々をご指導頂けたらと思います。

今回は会場開催の他、リモートを併用し、秋田にお越し頂けなかった方にも多数ご参加いただけました。このような素晴らしい講演を広く拝聴できる機会を提供いただいた運営委員の皆様には感謝いたします。

**産業看護部会****産業看護部会報告**

産業看護部会 幹事  
村越 亜弥子

今年度は、コロナの感染拡大も、少しずつ落ち着いてきた事もあり、2021年7月の東北地方会は2年ぶりに秋田にてハイブリッドで開催されました。またその中で第28回産業看護の集いと総会も、秋田の運営委員の方のご尽力にて、初のハイブリッド開催となりました。詳細は「産業看護とうほく」をご参照ください。

また今年度は9月に、産業看護部会が主催の第1回学術集会在開かれ、こちらは都内からのオンライン開催でした。「鬼滅の刃」のヒットを実現させたTOHOシネマズ社長からは、「エンターテインメントから応用できる行動変容と健康支援」、「はやぶさ2」の打ち上げプロジェクトチームの方からは「はやぶさ2プロジェクトから学ぶチームマネジメント」で、どちらもとても興味深いものでした。又、実地研修2単位が取れるオンライングループワークもあり、本当に盛りだくさんでした。第2回の産業看護部会学術集会は2023年に九州での開催の予定です。

そして今年度は、「産業保健」の定義について、約10年ぶりに検討されています。産業看護部会のHPに、皆様からのご意見を広く募っておりましたし、学会の自由集会上でも論じられている所ですので、お耳にした方も多いと思います。検討課題については、そろそろヤマ場に入ってきました。来年5月の本学会で何らかの見通しが発表される事と思います。楽しみにお待ちしております。

**産業衛生技術部会****産業衛生技術部会活動計画**

東北地方会幹事

河合 直樹

秋田での地方会では、弘前大学大学院医学研究科 神田晃先生から「健康と運動」と題してご講演をいただきました。

健康を運動で得るために、「何の運動を どの位の運動強度と時間で 何日間行うか」そして、「目標を達成するための原則とは何か」などをテーマに分かりやすく解説していただきました。

先生曰く。「人生は”その場しのぎ”の連続である。だから、生活のあらゆる場面で、実施できる運動を私は推奨する。」 運動が義務になると長続きしないということは、身をもって痛感していることなので、正に共感できる言葉でした。また、運動を楽しく続けるためには、「シンクペーションによるノリ」や道具の活用が有効であることを、好きな音楽を流しながら、愛用の道具（リストローラーボールなど）を使って、熱演実証していただきました。先生の若さの秘訣が分かったような気がします。

残念ながら、オンライン参加者を含め5名の聴講者にとどまりましたが、とても有意義なひとときを過ごさせていただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

次回は、私の地元、山形での開催となります。コロナウィルスが終息し、通常開催に戻って、皆さんと再会できることを祈念しています。

**歯科部会****歯科部会報告**

歯科部会幹事

井川 資英

歯科部会幹事の井川でございます。今回の原稿は夏に入会下さいました青森市在住の歯科衛生士伊藤瑠美さんに執筆いただきました。

歯科部会

歯科衛生士 伊藤 瑠美

皆様、はじめまして。

歯科衛生士の伊藤瑠美と申します。

私は現在、青森県立保健大学大学院博士課程において「働き世代の口腔衛生管理」に関する研究を行っており、本学の千葉先生よりお声がけをいただき、この度日本産業衛生学会へ入会いたしました。その後、7月に開催されました東北地方会での発表をきっかけに、歯科歯科部会へ入会させていただくこととなりました。

私はがん領域での口腔衛生管理を専門としており、産業歯科は全く未知の世界でした。しかし、職域での健康管理の問題は広範かつ多様化していること、また健康寿命延伸には口腔は大きく関与していることを常に実感しています。

現在は歯科医師の先生方とともに月1回程度、ZOOMによる研修会や情報交換などを行っております。産業歯科へ関わるようになってからまだ日は浅いですが、数々のことを学ばせていただき、大変勉強になっております。

素晴らしい先生方に出会えたこのご縁を大切に、皆様と一緒に働く方々の口腔を守っていきたく思っております。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



# 産業看護とうほく

第39号 2021. 12

発行者: 日本産業衛生学会東北地方会

産業看護部会

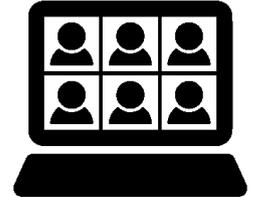
連絡先: 〒984-8519

宮城県仙台市若林区五橋 3-2-1

NTT 東日本 健康管理センタ 村越亜弥子

発行責任者: 村越亜弥子・森鍵祐子

## ◎ 第 27 回産業看護のつどい ご報告



2021年7月24日(土)、第80回産業衛生学会東北地方会が秋田市を会場に開催されました。今回は『ウイズコロナ社会の産業衛生』をメインテーマに、コロナ禍において東京オリンピックが無観客開催される中、地方会初のハイブリット開催となりました。

第27回産業看護のつどいでは、青森県立保健大学の竹林正樹先生に『一発でわかるナッジ』と題してナッジ理論についてご講演いただきました。現地参加は6名と少数でしたが、オンライン参加は、東北6県に限らずに北海道・沖縄からの申込もあり31名、Total37名の方にご参加いただきました。

ご講演の内容は、演題どおりに正に“一発でわかる”ように、現場のわたしたちにわかりやすくナッジ理論をご紹介いただきました。そして最新の研究や国の施策を反映させており、わかりやすく親しみやすいながらも、健康支援に如何にナッジが求められているかを論理的に説明いただきました。講演の内容ばかりでなく、竹林先生のナッジ理論を活かしたピクトグラムや資料の作り方も含めてとても参考になりました。わたしの拙い文章ではこの講義の雰囲気や竹林先生の持ち味が伝わりづらいと思います。竹林先生がTEDxトークで、ナッジを使った受診勧奨のお話をされています(16分)。ぜひ参考にご覧になってみてください。

<https://youtu.be/N9QzOaJjoSY>

“ナッジは楽しい”を伝えてくださったことで、もっと学んでみたい、取り入れてみたいとの興味を持たせていただきました。先生の講義を意識して、今後の現場での活動に生かしていければと思います。

## ◎ 各県の産業看護部会活動報告（2021年7月時点）

### 【青森】

当県のメンバーは今期よりメーリングリスト(希望者のみ)をつくり情報共有を強化している。県内の産業保健スタッフの動向としてやはりコロナ関連の対応が多くなっている。

### 【秋田】

県内の産業看護職の自主的グループがあったが、ここ数年休会しており、創立者も退職したことから、県内の産業看護職のつながりが希薄になっている。そのため5月末から「秋田県産業看護職の会」として、自主的なネットワークグループの構築をはじめた。

### 【山形】

研修会はリモートが主になってきている。産業保健総合支援センター主催の事例検討会が1月と5月に開催された。産業保健総合支援センター主催の月1回の産業保健メンタル研修会などは、今まで呼ぶことのできなかった外部講師（多忙や遠隔地等）を呼ぶこと等、利点もでてきている。

### 【岩手】

産業看護職の研修会はコロナ感染症蔓延防止のため未実施の状態である。岩手産業保健総合支援センター事業は、前半、緊急事態宣言で未実施の時期があったが、それ以降はほぼ計画通り実施した。

### 【宮城】

日々の情報交換や勉強・交流の場の提供を目的として、地方会産業看護部会登録者のみにとどまらず非会員も対象とする宮城県産業看護職のネットワーク構築を図っている。メーリングリストでの情報共有や定期的な交流会（ZOOM オンライン）をしていく予定。

### 【福島】

福島産業看護研究会（インテル）〈会員数 11 名〉にて、2021年テーマを「人生100年時代に向けた健康管理 part3」として、定期的に勉強会を実施中。福島県内の産業看護職の自主的ネットワーク組織、福島産業看護協議会〈会員数 40 名〉は、福島産業保健総合支援センターと共催で、年間2回の研修会を開催していたが、今年は新型コロナの影響により開催していない。



### 編集後記

2020年より運営委員になりました。よろしく申し上げます。初めての運営委員、初めての地方会、初めてのハイブリット開催と、わたしにとっては正に『初』づくしの地方会でした。地方会の際にはコロナ感染症の感染レベルの動向にハラハラさせられましたが、編集後記執筆時点では、全国の感染者が減少し、大都市圏での時短営業も解除され、安堵感が広がっています。リモートの活用はとても有益ですが、温度感を感じられる対面での交流・研修も待ち望まれます。皆さまにお会いできる日常生活を心待ちにしております。（秋田：和田桐子）

## 会員の異動（令和3年5月から令和3年11月）

### ■青森県

新入会 伊藤 瑠美

(青森保健大学大学院健康科学研究科)

### ■山形県

新入会 坂本 純

(鶴岡市立荘内病院)

### ■岩手県

新入会 栗津 剛

(岩手医科大学附属病院)

山野 真裕

(岩手県立磐井病院)

転出 千葉 千佳子

(宮城県へ)

退会 山岡 豊

### ■宮城県

新入会 角田 美穂

(西仙台病院)

高橋 友里恵

(JR 仙台病院 健康管理センター)

中山 紘子

(JR 仙台病院 健康管理センター)

赤塚 風花

(日本たばこ産業(株) 東北支社)

### ■秋田県

新入会 坂田 捺哉

(秋田大学医学部医学科)

酒井 一樹

(秋田大学医学部医学科)

転出 諸富 伸夫

(東京都へ)

転出 荒科 悠子

(埼玉県へ)

退会 菅野 富喜子



### 編集後記

今回のみちのくは、7月の産業医協議会で東北地方会の歴史をご講演くださった中屋重直先生、今年度から新たに代議員に就任された齋藤慶史先生、五十嵐侑先生からも寄稿をいただき、読み応えのある内容となりました。ご協力いただきました先生方に御礼申し上げます。

今年も残す所あと僅かとなりました。昨年に引き続き新型コロナの感染症の拡大、収束が繰り返され、先の見通しがたち難い困難な一年でしたが、その中であって、第80回東北地方会学会を開催出来たことは地方会として本当に喜ばしいことであったと思います。野村恭子先生をはじめ開催に御尽力いただきました秋田大学衛生学・公衆衛生学講座の皆様には心から感謝申し上げます。新たにオミクロン株が出現し、未だ予断を許さぬ状況ではありますが、昨今の日常を取り戻しつつある平穏な日々のまま新年を迎えることが出来ますよう、祈念したいと思います。本年は大変お世話になりありがとうございました。来年も東北地方会の更なる発展に向けて共に頑張りましょう。皆様、良いお年をお迎え下さい。(T.I)